

ペアトレと環境作り

第3回 脳が伸びる教育環境の作り方(大人の共有)

こんにちは。

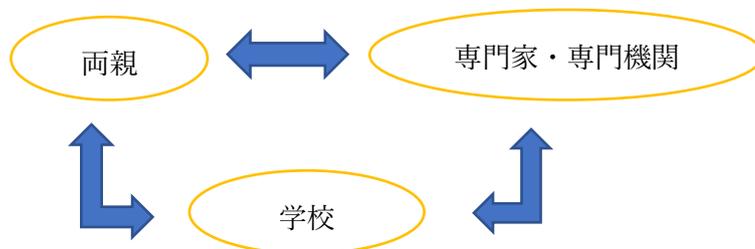
今回は 発達障害を持つ子どもの脳の特徴を
子どもに関わる大人が共有する大切さについて
お話ししたいと思います。

今までは家庭での関わり方目線が中心でしたが、
子どもが大きくなれば、
子どもを取り巻く環境も広がっていきます。

↓

子どもと接する人たちが皆、同じ情報を共有したうえでなら
脳の教育は効率的に進みます！

《子どもの情報共有が大切!!》



*病院の受診などもできるだけ両親で行きましょう。

*学校での情報共有は専門家に入ってもらい
具体的に学校でできそうなことを書いてもらってください。

*学校の担任だけでなく、特別支援コーディネーターの先生や
学校心理士などにも情報を共有してもらうことが大切です。

●脳が伸びる教育環境



《人との関り》

- ・親
- ・発達障害に詳しく、子どもの特徴を理解して
教育的支援ができる先生の存在(学校の先生)
- ・子どもの友達関係
- ・専門家(心理士、言語聴覚士、作業療法士など)
- ・体操教室、習い事、家庭教師など
- ・子どもが意欲を見せることについて詳しい大人
- ・礼儀を教えてくれる人



《子どもの教育チーム》

- ・他の人の力を得て
- ・お母さんが1人で子どもの教育を引き受けて疲弊せず
- ・お母さんが信頼して相談できる先生を核として
据えるのが理想的

●病院の選び方

☆医師だけでなく教育スタッフがいる施設

→投薬だけの医療では不十分

社会的スキルや認知・言語・運動スキルなどを学習させていく

専門的な対応が欠かせません

☆親も支援を受ける必要がある

→親を「支援者」として育て、

子どもが家庭でも支援を受けられるようにすることが目的



『ペアレントトレーニング』など

今回はいつもに比べ、字で説明することが多くなり

分かりにくいと感じたかもしれません。

しかし、子どもと関わる大人の存在は

子どもの脳を伸ばす教育環境として
とても大切です！

1人で悩まず

どんな小さなことでも相談できる、
信頼できる場所・人を
お子さんのためにも
ぜひ、確保してください。

お子さんも お母さんも 皆が
安心できる場所ができることを
願っています。

参考・引用文献：発達障害の子どもを伸ばす 脳番地トレーニング
加藤俊徳著